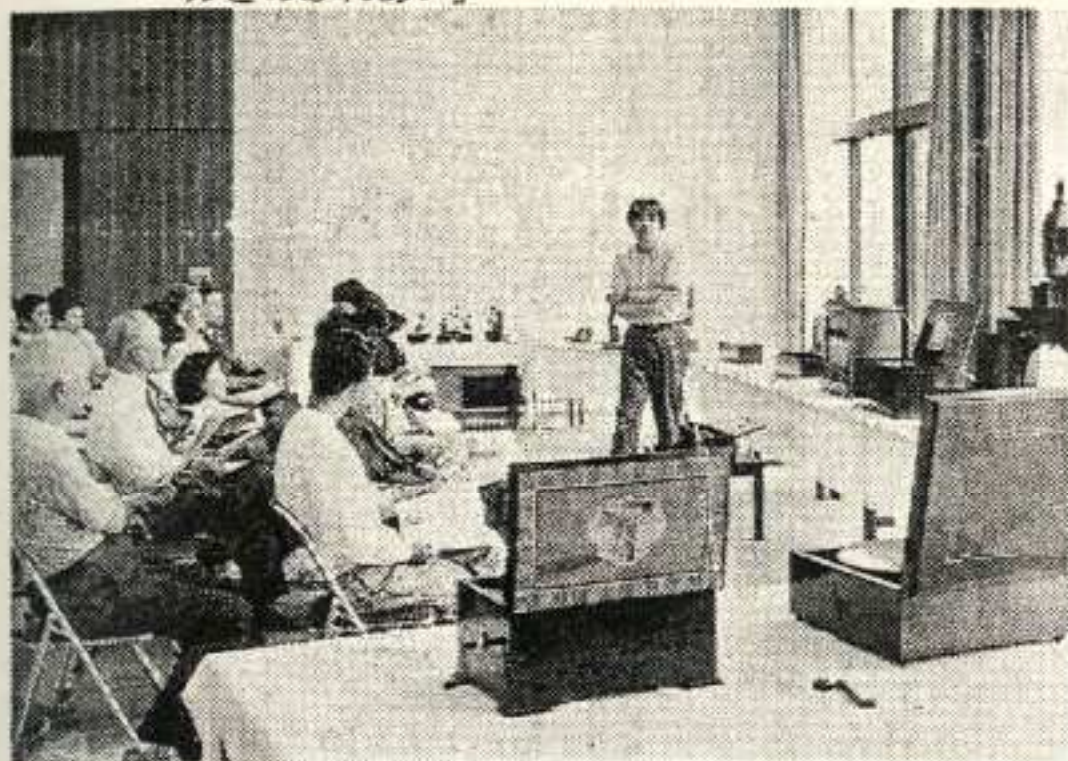


オルゴールの音色を楽しむ「クラシックオルゴールとのふれあい」



19世紀の音色楽しむ

東栗倉村のクラフトハウス完成記念

オルゴールを聴く催し

スイスなどのクラシックオルゴールを集めた「クラシックオルゴールとのふれあい」が二日、英田郡東栗倉村太田の村基幹集落センターで開かれた。ユニークな催しとあって地元はもとより関西方面からの愛好者も訪れ、集大成されたオルゴールの音色を楽しんだ。

クラシックオルゴールは「オルゴールの小さな博物館」（東京）などから借り受けた十七台。いずれも一八〇〇年代に作られたもので、シリンドーオルゴール、ディスクオルゴールなどの種類。

催しは二部構成で、三十分間ずつ三回開かれた「オルゴールとのふれあい」では、同

博物館専門員が解説をしながら各オルゴールの曲を披露。オルゴールの音色が力強くやさしく会場を包み、参加した愛好者らは耳をすまして聴き入っていた。小鳥がさえずったり、人形が楽器を演奏する「からくりオルゴール」も紹介され、目を楽しませた。

夜はオルゴールコンサートが開かれ、音楽ファンがろうそくの明かりのもと、ロマンチックな音色をたん能した。この催しは三日も開かれる。

同村は「創造」「音色」「自然」を三本柱に、愛の村リゾート構想を進めており、同日落成したクラフトハウスを記念し、音色の歴史の一端を担ったオルゴールに焦点をあて開いた。